

長野市のポテンシャル ～データから見て 取れる長野市の潜在“特性”と“優位性”

土地柄・歴史的背景からみた長野市の特徴

山に囲まれた閉鎖的な空間にあるコンパクトな街で、住民同士の親密性が生まれている。また、歴史的な背景から多様な人を受け入れる独特の風土が形成されている。

■土地柄からくる長野市の気質(=“住民同士の親密性、おおらかで生真面目な気質”)

- 陸の孤島と例えられるように山に囲まれた閉鎖的な空間の中にあるコンパクトシティであるが故に、**住民同士の親密性**を生んだと考えられる。
- 豊かな農村、高原、山岳、河川など牧歌的な風情は、住民の**おおらかな気質**を育んだ。(勝敗に関わらず、地元スポーツチームを応援する際のおおらかな雰囲気は特出した例)
- 一方、冬は豪雪であり、閉鎖的な地形の中で**自分達だけで**厳しい冬を乗り越える工夫が必要であり、**生真面目さ**も同時に育まれた(オリンピックやマラソン、その他イベントをはじめ、市民が自前主義で解決)

■歴史的背景からくる長野市の気質(=“多様な人を受け入れる包容性”)

- 長野市は元々**善光寺の門前町**として発達し、**多くの人々を受け入れてきた**。
- 市制100周年でオリンピックを開催し、交通インフラが整備され、**多国籍な人々を受け入れ**、仏都長野から国際都市NAGANOへと変化。
- また、東京都心、近隣都市との交通利便性向上によって多くの人が訪れる場所となった。
- オリンピックや長野マラソンなど、ヒトの役に立つ満足感と達成感の享受を通して**ボランティア精神とコミュニティ**(異質な他者との協働へのポジティブマインド)が生まれた。

①閉鎖的な山間部 ⇔ 大都市と繋がり、世界と繋がっている

②おおらかに人を迎える ⇔ 生真面目に自分達でやりきる

③固有の歴史、原自然といった自然的なもの ⇔ ワールドスタンダードのファシリティといった人工的なもの

④自然の中で遊び、学ぶ ⇔ 先端の研究

➡ **「良い矛盾」が存在し、それが長野市をユニークにしている**



(サマリ) 長野市の特徴・強みを活かせる領域・テーマ

長野市の特徴・優位性から鑑みた場合、“スポーツ”、“観光”、“教育”、“ヘルスケア”等の分野はまちの発展に寄与する起爆剤となり得る。

長野市の特徴		優位性(強み)	
ソフト	気候	都心より涼しく、日照時間が長く、且つ降水量が少ない。山間地の降雪量は新潟と同程度である。	✓ 夏場、冬場で違ったバラエティに富んだスポーツが楽しめる環境
	自然	市の面積の約3/4は山間部であり、日本百名山に指定される高妻山、12の山・22のトレッキングコース、戸隠高原など豊かな自然が多く残る。	✓ 観光資源であり、人々の運動の場にもなっている大自然
	歴史	善光寺平を中心に門前町として栄え、武田信玄と上杉謙信が戦った川中島合戦場、城下町松代、戸隠や鬼無里など文化財が複数存在。	✓ 貴重な観光資源であり、学びにも生かせる歴史・文化財
	文化(スポーツ)	多様なプロスポーツチームが複数存在し、長野マラソンをはじめ、市外から多数の参加者が参加する多様性のある大規模なスポーツイベントが現存。	✓ 地域スポーツ振興、コミュニティに寄与するスポーツクラブ、アカデミー・スクールスポーツイベント等の基盤保持
	教育	スポーツ医学や地域コンテンツを活用する地元大学、自然を生かした体験を取り入れた保育、一校一国運動のような異文化理解への取り組みが存在。	✓ スポーツ、自然、異文化理解を取り入れたユニークな教育環境
	健康・医療・福祉	医療キャパシティが高く、幅広い層（児童、高齢者、障害者）に対する福祉が充実。また、長野市の高齢者の運動量、健康寿命が高い。	✓ 包括的な福祉、病気予防、健康維持に適した環境
	食文化	地の食材を使った健康的な郷土料理やジビエなどが特徴的で、市は地元の食材を取り入れた食育も推進。	✓ 健康的な食生活、伝統料理の体験
ハード	コミュニティ	スポーツボランティアや観光地でのボランティアガイド、おもてなしといった形でオリンピック後もボランティア精神が根付き、活動も継続。	✓ ボランティアを通じた人々の繋がりと外の人々を迎える受容性
	施設	大規模なオリンピック施設、112の運動施設が各地域に密集。結果として、市民は健康づくりや、スポーツ、運動が気軽にできる環境が整っていると実感。	✓ 各地域でどこでもスポーツ、運動ができやすい環境
	交通	東京から1時間40分と都心からのアクセスが良く、市街地、観光地には電車・バスが整備されているが、住民の移動手段は車が多。	✓ 都心からのアクセスの良さ
上記を支える地場経済、財政・政策			
基盤	経済	卸売・小売業、電子機器、食品が発展、全産業に占める割合が高く、大規模な企業も存在。複数の企業は地元スポーツチームへのスポンサーも実施。	✓ 地場産業が存在し、雇用・経済面で地域の持続性を担保
	財政・政策	市の実質収支は黒字であり、唯一無二の「スポーツを軸としたまちづくり」や地域内の連携を政策として推進。	✓ スポーツを軸としたまちづくりをビジョンとした都市運営(他地域との差別化資源の保持)

強みを活かしてまちの発展に活用できる分野

スポーツ

- スポーツに適した気候、自然環境、豊富な施設



観光

- 多くの文化財、原風景、伝統料理、都心からのアクセスの良さ

教育

- 自然やスポーツ、多様性を取り入れた教育(子供の体験・学び)

ヘルスケア

- 予防医療に適した運動が気軽にできる環境や健康な食生活



スポーツと他の要素のかけ合わせでユニークな価値を創出できるポテンシャルを間違いなく保持している思料

気候

都心よりは涼しいことはもちろん、日照時間が長く且つ降水量が年中少ない。また山間地の降雪日数及び付近のスキー場のオープン日数は新潟県湯沢町と同等程度であり、夏場、冬場で違ったバラエティに富んだスポーツが楽しめる環境となっている。

図1) 東京と比較すると年中涼しい気候

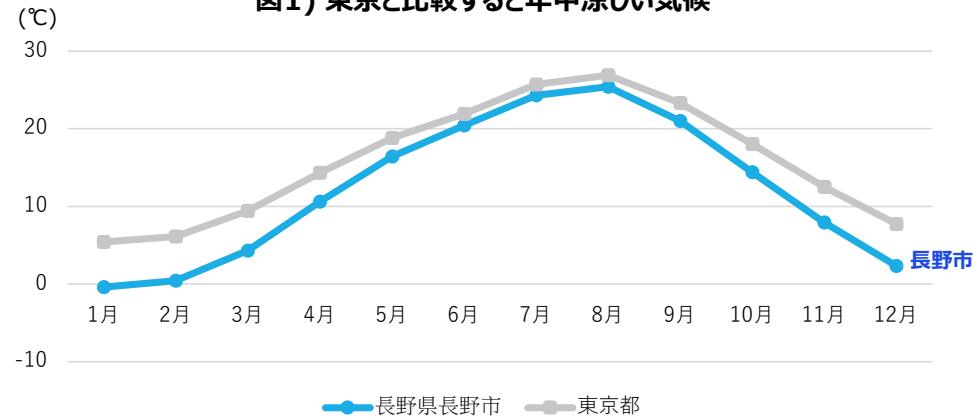


図3) 夏場の日照時間は長い

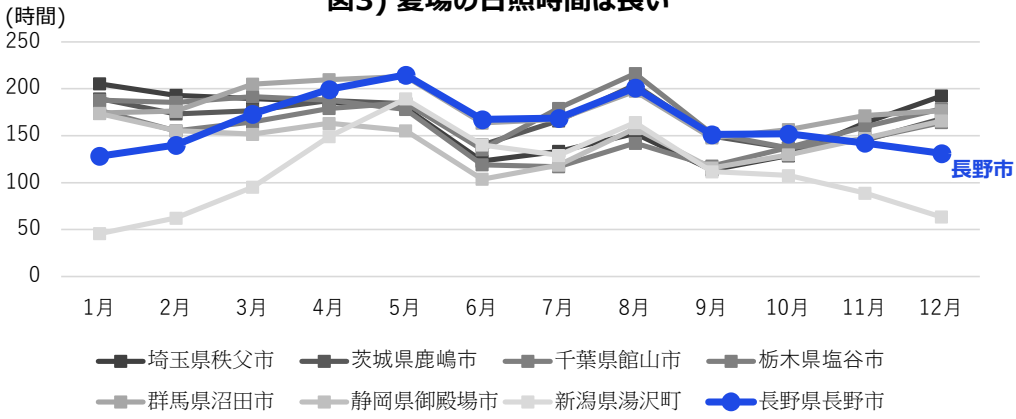


図2) 降水量は1年を通じて少ない

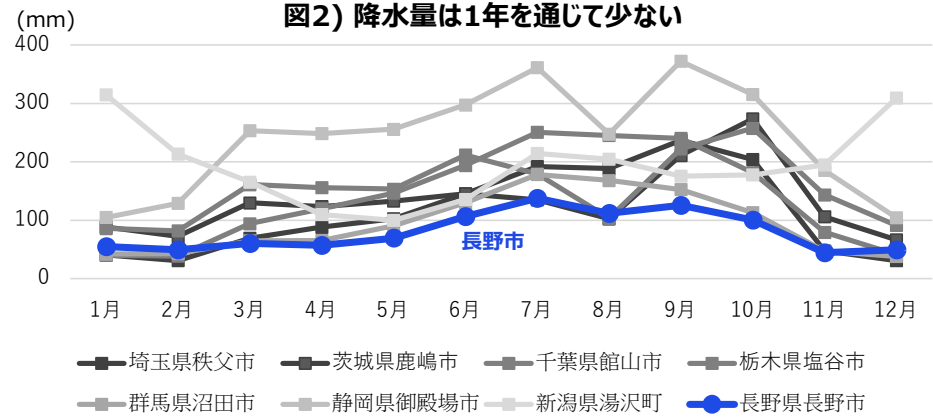
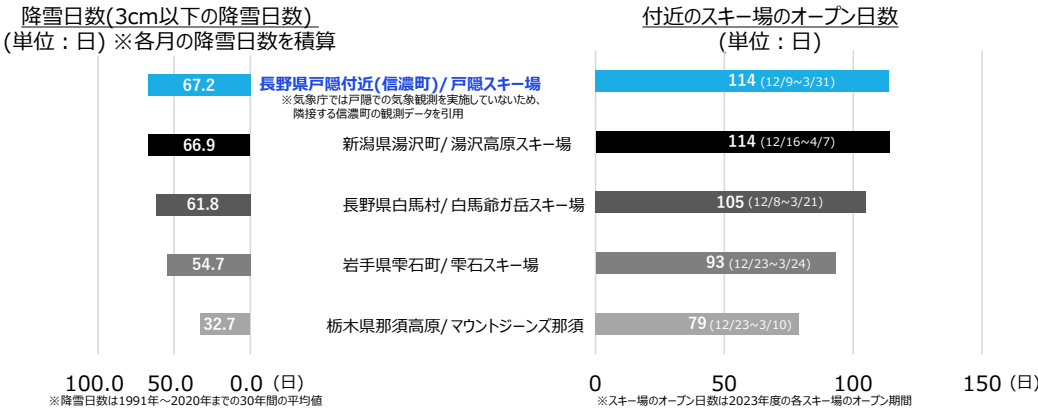


図4) 降雪日数・スキーができる日数は新潟県湯沢町と同等



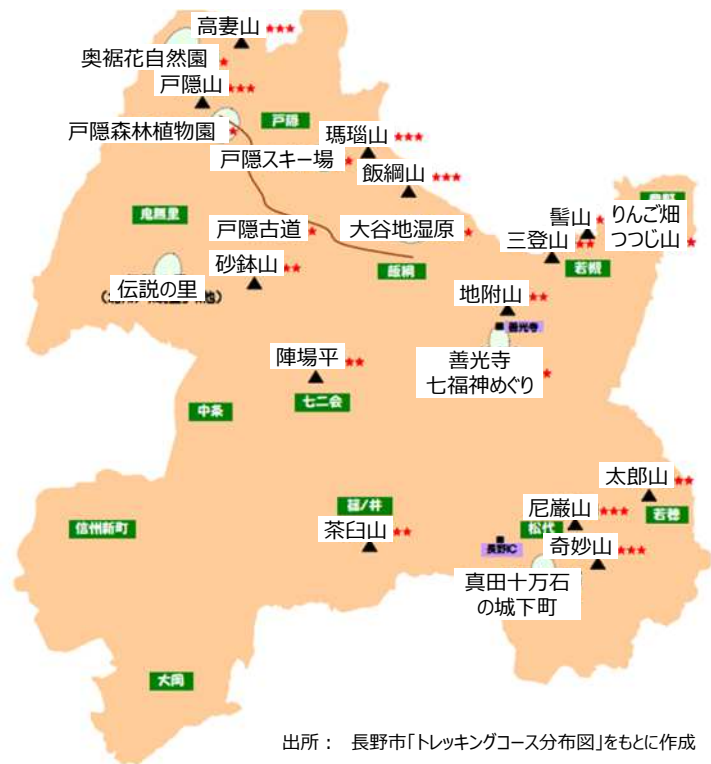
出所： 気象庁 ※図2,3の比較自治体：都内から同じ1時間半程度で行け、合宿施設を保有し、気象データを観測できる場所を対象として抽出

出所： 各スキー場HP、東急リゾート&ステイ株式会社、SURF & SNOWをもとに作成

自然

長野市の面積の約4分の3は中山間地域であり、長野市内には日本百名山に指定される高妻山をはじめ、12の山・22のトレッキングコースがあり、年間約150万人が訪れる戸隠高原など、市内の過半を占める自然は人を惹きつける魅力がある。

- 日本百名山をはじめ12の山、22のトレッキングコースがある
 - 日本百名山である高妻山をはじめ、戸隠山や飯綱山など12の山を有する。



出所：長野市「トレッキングコース分布図」をもとに作成

- 年間約150万人が訪れる戸隠高原
 - 戸隠高原では2000年を超える歴史を持つ戸隠神社や風光明媚な鏡池、約22haのキャンプ場があり、多くの観光客が訪れる。

来訪者数 ランキング	市町村名	観光地名	R4年利用者数 (単位：千人)
1	長野市	善光寺	9,765
2	軽井沢町	軽井沢高原	7,129
3	諏訪市	上諏訪温泉・諏訪湖	3,258
4	山ノ内町	志賀高原・北志賀高原	2,281
5	白馬村	白馬山麓	1,944
6	諏訪市	霧ヶ峰高原	1,880
7	立科町・茅野市	東白樺湖・白樺湖	1,790
8	茅野市	蓼科	1,510
9	長野市	戸隠高原	1,460
10	上田市	上田城跡	1,261

出所：長野県「令和4年観光地利用者統計調査結果」をもとに作成

歴史

善光寺平を中心に約1,400年の長きにわたり、善光寺の門前町として栄え、武田信玄と上杉謙信が戦った川中島合戦場、城下町松代、伝説の里 戸隠や鬼無里など全国的にも知名度を誇る歴史・文化財を保有する。

長野市が保有する548の文化財

	種別	指定・区分		件数
国				191
	有形文化財	指定	国宝	1
		指定	重要文化財	30
		登録	登録有形文化財	137
	民族文化財	選択	記録作成等の措置を講ずべき無形の民族文化財	1
	記念物	指定	史跡・名勝・天然記念物	7
		登録	登録記念物	8
	伝統的建造物群	選定	重要伝統的建造物群保存地区	1
	重要美術品	－	－	6
県	有形文化財 等	すべて指定	県宝など	58
市	有形文化財 等	多くは指定	有形文化財 等	299
計				548

1707年に再建し、国宝に指定される善行寺本堂



善光寺の三門(左図)及び経蔵(右図)も重要文化財に指定



(※下記一例)

- ・ **オリンピックレガシーの継承を目的とした「長野灯明まつり」**
長野冬季オリンピックでの感動と躍動、そして恒久の平和への願いを世界に発信したレガシーを継承し、弛まぬ平和への願いを再び世界へと発信するために開催された冬の祭典
- ・ **日本三大祇園祭とも称された「ながの祇園祭」**
かつては、京都・八坂神社、広島・厳島神社と並び日本三大祇園祭とも称された大祭
- ・ **市民による市民のためのお祭り「長野びんずる」**
善光寺に祀られる「おびんずるさん」にちなんだ名称であり、市民参加型の地域振興・観光を目的としたお祭り

出所：長野市「歴史的風致維持向上計画」をもとに作成

文化・スポーツ

分野の異なるプロスポーツチームが複数存在し、スポーツクラブ、アカデミー・スクールは地域のスポーツ振興に寄与している。また、長野オリンピックを起源とする長野マラソンをはじめ、市外から多数の参加者を有する多様性のある大規模なスポーツイベントが複数存在。

AC長野パルセイロ



- 「パルセイロ」(parceiro)はポルトガル語で「パートナー」の意味であり、**地域社会とクラブがパートナーとして共生する「地域密着協働型スポーツクラブ」**を目指すことを意味する。
- AC長野パルセイロ・レディース、ジュニアユース、スクール・アカデミー、地域密着を同じ活動理念として掲げるアイスホッケー、バドミントンチームとパルセイロの名前を共有し、共に活動。
- 自宅でできるトレーニング動画の配信や**人権啓発活動の推進**も行っている。

信州ブレイブウォリアーズ



- 「楽しいを作る！」の企業理念のもと、「プロバスケットボール興行を中心にスポーツ経済を広げ、**地域社会を豊かにする**」のビジョンを掲げている。
- ユース、スクール、チアダンススクールJey'sを有する
- 地元企業と共同でCO2フリーゲームなど環境保護キャンペーンを行う。

ボアルース長野



- フットサルを通じ**地域に活力を与える**ことを目指し、常に規律と挑戦と笑顔、感謝をもって、『夢・希望・感動』を共有できるクラブを目指す。
- サッカー×フットサルスクールを展開
- 部活動の地域移行の支援や市内の保育園や幼稚園との交流**を実施。

長野マラソン



スポーツイベント(一例)

- 1998年長野オリンピックの感動を永遠に残そうと、翌1999年の春に初開催した**1万人以上のランナーが集う**イベント。
- エムウェーブ、ホワイトリング、ビッグハットなどのオリンピックが開催された会場前を通るコースで、ゴールは開・閉会式場の長野オリンピックスタジアム（現野球場）

長野車いすマラソン



- 長野冬季パラリンピック競技大会の理念を承継し、障害のあるなしにかかわらずスポーツを愛する者同士が協力しあい、障害者のスポーツ振興に留まらず、さらなるノーマライゼーションの推進と**障がい者の社会参加の促進に寄与**することを目指す。市民マラソンとして人気の高い長野マラソン大会とコースの基本部分を共通に、同日開催する。

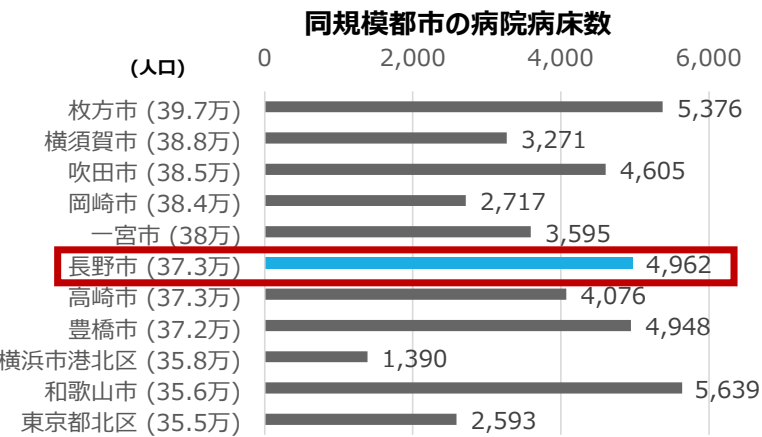
NAGANOパラ★スポーツデー



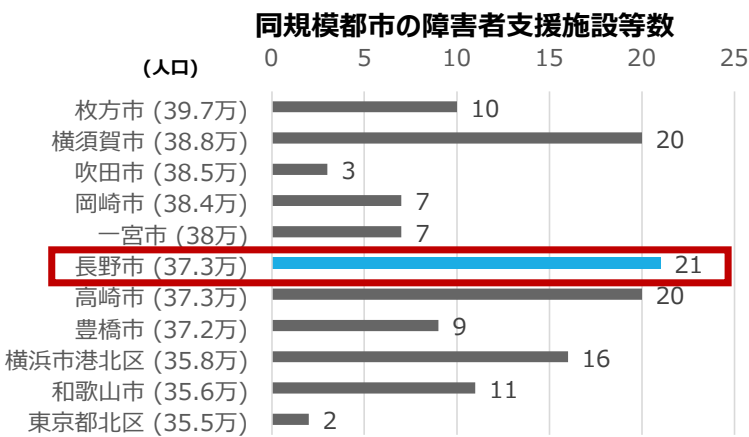
- 年齢や性別、障害の有無に関わらず、相互に協力し合いながらパラスポーツの体験ができるイベントを開催。
- 本イベントを契機にパラスポーツの関心をさらに高め、2028全国障害者スポーツ大会に向けてパラスポーツを楽しめる環境づくりを目指す。

健康・医療・福祉

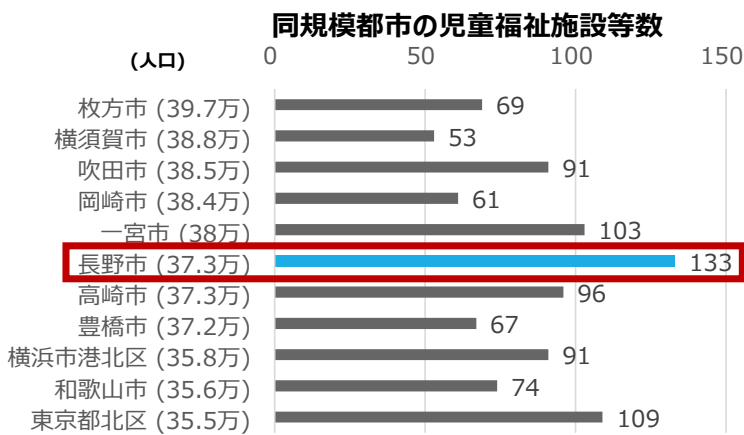
人口が同程度の都市と比べて病院病床数が多く（医療のキャパシティが高い）、児童福祉施設数、老人福祉センター数、障害者施設数も多い（福祉の包括性が高い）。



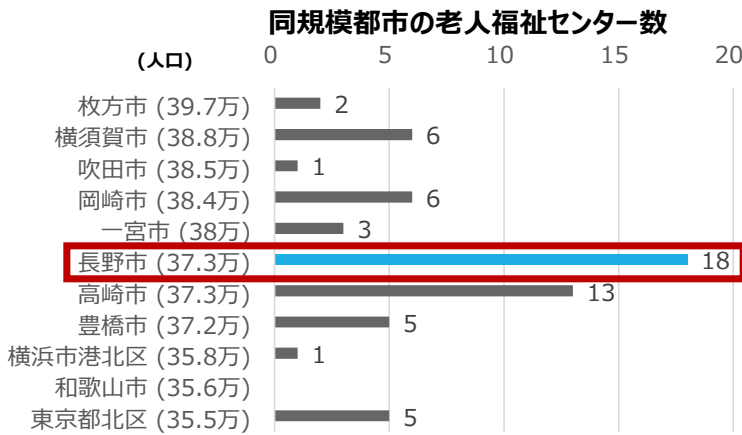
長野市の病床数は、
4,962で**同規模の都市に比べて多く**、全国の市区町村の中でも53位（**上位3%**）と高い



長野市の障害者支援施設数は、21で**同規模の都市に比べて多く**、全国の市区町村の中でも22位（**上位1%**）と高い



長野市の児童福祉施設数は、133で**同規模の都市に比べて多く**、全国の市区町村の中でも33位（**上位2%**）と高い



長野市の老人福祉センター数は、18で**同規模の都市に比べて多く**、全国の市区町村の中でも**4位（上位0.2%）**と極めて高い

出所：日本政府(総務省 統計ダッシュボード(e-stat))病院病床数【床】(2020年度)、児童福祉施設等数(詳細票)【所】(2017年度)、障害者支援施設等数(詳細票)【所】(2017年度)、老人福祉センター数【所】(2017年度)をもとに作成

食文化

急峻な地形で標高が高く、寒冷な気候を生かして栽培した食材を使った健康的な郷土料理や地元のジビエなどが特徴としてあげられる。また、長野市は、第三次長野市健康増進・食育推進計画「ながの健やかプラン21」で、給食献立への郷土食、行事食の取り入れも行っている。

地形、気候の制限の中で栽培した食材や地元のジビエを使った伝統料理などが有名

長野市の地形・気候

- 急峻な地形、寒冷な気候は稲作に向かず、小麦、雑穀、そばが栽培された。
- 上記により、信州は野菜が収穫できるのは夏から秋にかけての半年間であった。

地形・気候の制限の中で作られた食材による伝統料理

- そば**
 - ✓ 昼夜の寒暖差が大きい長野では、デンプンがしっかりと熟成したおいしいそばを育てることができる。
 - ✓ 信州の水の美味しさも、そばの味を決める重要要素。
- おやき**
 - ✓ 同じ粉ものでも麺を作るより調理時間が短く、日常食として定着。
- 77種類の信州伝統野菜**
 - ✓ 長野市の農家数（自給的農家）は全国1位*
 - ✓ 半年間で収穫されたものを残りの半年にいかん保存し、美味しく食べるかということに知恵をめぐらせ、「野沢菜漬」に代表される漬物の習慣が定着した。

地元のジビエ

山のちからは人のちからに。



長野市は「国産ジビエ認証」「信州産鹿肉処理施設認証」の二つの認証を取得したジビエ処理加工施設「長野市ジビエ加工センター」を運営

地元食材が体験できる施設



長野市の指定管理者が運営する茅葺屋根の古民家を改修した宿泊体験施設「やきもち家」。伝統的な囲炉裏で焼くおやきやジビエ料理が楽しめる

市内での食に関する取り組み



長野市は、第三次長野市健康増進・食育推進計画「ながの健やかプラン21」で、園児、児童・生徒の健康の保持・増進のため、**給食献立への郷土食、行事食の取り入れや地産地消の取組を推進**



「食」をテーマに子どもたちが交流するイベント

NPO Hotline 信州が長野市の篠ノ井交流センターにて開催し、**食などをテーマに子どもたちが交流**できるブースを設け、子供たちが長野県産のりんごの皮むきなどを体験

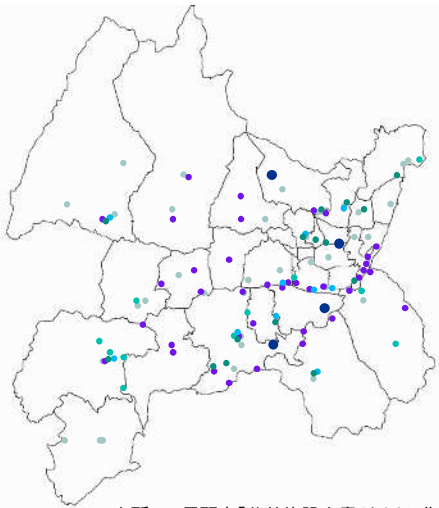
*出所： graph to chart「【全国ランキング】農家数(自給的農家)」

施設

長野市には、**112もの運動施設が存在**し、各地域ごとに密集して存在している。第五次長野市総合計画アンケート調査によると、約半数が健康づくりに取り組みやすい環境が整っている、スポーツや運動が気軽にできる環境が整っていると感じている。

■ 長野市に存在する運動施設

施設大分類	中分類	主な施設	施設数 (総数)
体育施設	体育館・屋内運動場	社会体育館・屋内運動場	37
	運動場	千曲川リバーフロントスポーツガーデン	41
	マレットゴルフ場	茶臼山、裾花	3
	大規模運動施設	長野運動公園総合運動場	2
	市民プール	サンマリンながの	10
	テニスコート	西和田、若穂中央公園	17
	その他の施設	ホワイトリング、スパイラル	2

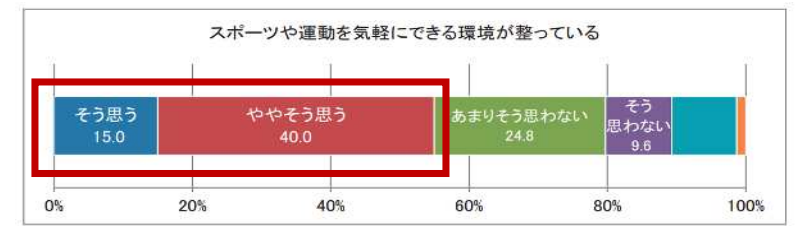


出所：長野市「公共施設白書」をもとに作成

- 1975年の‘スポーツ都市宣言’以降、体育施設の充実を推進してきた。
 - また、オリンピックムーブメントの推進やスポーツを軸とした街づくりの推進もスポーツ施設の充実を後押ししてきた。
 - 県でみると人口あたりのスポーツ施設が他県に比べて充実
 - ✓ スキー・スノーボード場数1位
 - ✓ ゴルフ場数6位
 - ✓ フィットネスクラブ数8位
 - ✓ テニス場数1位
- 出所：とどろん

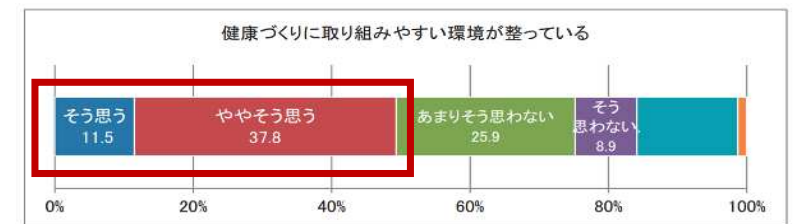
■ 長野市民のスポーツ、運動をする環境に対する反応

半数以上がスポーツや運動を気軽にできる環境が整っていると感じている



H28 第五次長野市総合計画アンケート調査

約半数が健康づくりに取り組みやすい環境が整っていると感じている



H28 第五次長野市総合計画アンケート調査

(参考) オリンピック施設

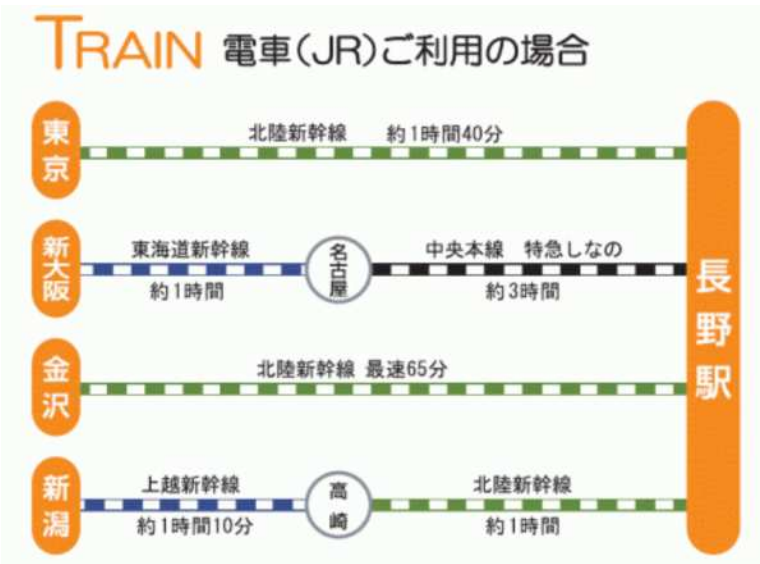
各施設は長野駅から車で30分圏域内とコンパクトな土地にオリンピック施設を有するスポーツタウンとなっている。



交通

東京から1時間40分と都心からのアクセスは良いが、市内での移動は基本は自家用車であり、地域住民が高齢化する中で地域交通の確保が大きな課題となっている。また、オリンピック施設間や観光地-運動施設間の移動手段は限られている。

各都市からのアクセス



都心からの移動は1時間40分と利便性が高い
金沢、新潟からもアクセスは良い

出所：長野市Webサイトより抜粋

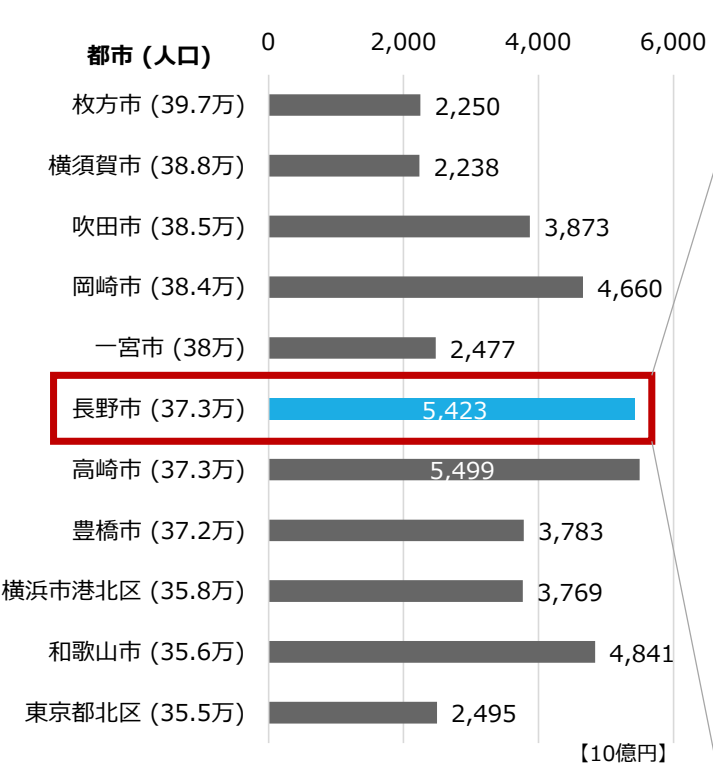
長野市内の交通

	主な交通手段	問題点
中心部	- 市バス - 中心市街地循環バス「ぐるりん号」	バス以外のモビリティ（ライドシェア、シェアサイクル等）は検討の余地あり
郊外	- 地域循環コミュニティバス「東北ぐるりん号」 - 地域循環コミュニティバス「篠ノ井ぐるりん号」 - 乗合タクシー	地域住民の高齢化、免許返納に伴い、買い物、医療難民が増加する懸念がある
施設間	長電バス、アルピコ交通といったバスが部分的に通っている	オリンピック施設を結ぶ公共交通手段が弱い
観光地間	善光寺、戸隠、真田邸といったメジャーな観光地間はアルピコ交通のバスが通っている	スポーツツーリズムの文脈では、観光地と運動施設の結節は良くない

産業・経済

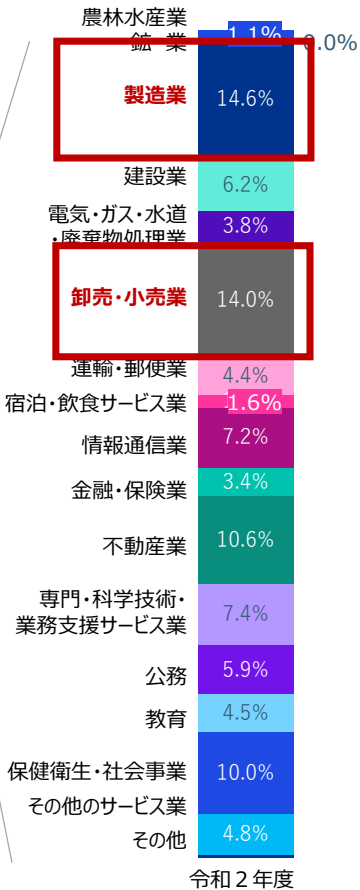
卸売業を中心に商業が発達したことから、全産業に占める**小売・卸売業の割合が多い**。また、企業が昭和初期から戦争中の疎開によって企業が長野市に移転したことで製造業も発展。**売上1,000億円を超える地場大企業も存在し、複数の会社は地元スポーツチームへのスポンサーも行う**。

同規模投資の民営事業所売上



長野市は、同程度の人口の都市と比較すると経済規模が大きい

長野市内総生産の項目別構成比(名目)



令和2年度

長野市に本社をおく主要な地場企業

製造品出荷額では、電子回路基板、みそ、無線通信機械器具、オフセット印刷、電子計算機（パソコンを除く）の品目が出荷額の多い順となっている



東証プライム上場。売上約1,400億円
富士通子会社で半導体部品などを製造



売上高約300億円
情報・通信機器、メカトロニクス機器、
電源・エネルギー機器メーカー



東証プライム上場。売上約700億円
食品包装資材の製造・販売、および食用きのこを製造
複数の地元スポーツチームのスポンサー
(AC長野パルセイロ/信州ブレイブウォリアーズ/信濃
ランセローズ/ボアルース長野/その他スポーツイベ
ント・大会等に協賛)



売上約500億円
味噌を中心とする食品メーカー

都市の成り立ちが県庁所在地であり、官公署が集中していたことから、
卸売業を中心に商業が発達



名証メイン上場。売上約2,300億円
水産物を中心に、食料品全般を扱う卸売会社
複数の地元スポーツチームのスポンサー
(AC長野パルセイロ/信州ブレイブウォリアーズ)



売上約330億円
富士薬品傘下のドラッグストア

出所：総務省e-stat、長野市「市民所得推計」を元に作成

オリンピック・パラリンピックは長野市に何を残したのか？

長野オリンピック・パラリンピックが残したもの



“長野市特性”への染み出し：①高いスポーツ実施率

長野市においては、スポーツ実施率、スポーツクラブ等への加入状況について全国的にもかなり高い状況である。

週1回以上の運動・スポーツ実施率		
順位	県	%
1位	静岡県	65.97%
2位	長野県	65.67%
3位	島根県	65.52%
4位	新潟県	63.95%
5位	千葉県	63.93%
6位	栃木県	62.02%

過去1年のスポーツクラブ・チーム・同好会への加入状況		
順位	県	%
1位	香川県	28.57%
2位	長野県	26.87%
3位	熊本県	25.78%
4位	静岡県	25.63%
5位	千葉県	25.11%
6位	滋賀県	23.38%

- オリンピック実施そのもので高いスポーツ実施率が定着したというよりは、**オリンピックによる環境整備、オリンピックを契機としたスポーツ志向の一時的な押上げと、その後の継続(個人の志向だけでなく、行政・民間含めた積極的な事業・政策の展開)**によって、スポーツ実施の習慣が定着したと考えられる。

※隔年で実施している「スポーツライフに関する調査」の2010年～2016年までの4回分の調査サンプルを統合して算出

出所：笹川スポーツ財団

“長野市特性”への染み出し：②長寿命化、③社会的包摂性の強化

前述の運動施設、福祉施設の充実に加え、長野市による健康維持・増進プログラムが多く存在し、特に市内の高齢者の運動量が高く、結果として市民の健康寿命は全国平均に比べて高くなっていると考えられる。

長野市の健康維持・増進の取り組み

長野市の施設の充実

運動施設

112もの運動施設が地域に密集して存在し、第五次長野市総合計画アンケート調査によると、約半数が健康づくり、運動が気軽にできる環境が整っていると感じている

福祉施設

児童福祉施設、老人福祉センター、障害者支援施設といった福祉施設が同規模の都市と比較して多い

長野市による健康維持・増進プログラムが数多く存在



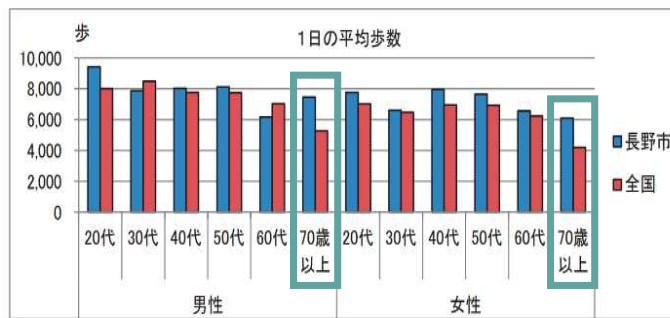
健康維持・増進

- 肩こり改善＆血管しなやか運動講座
- 運動習慣と筋肉が身につく講座
- 血糖値を下げる運動講座

- 健康寿命を延ばそう
- 保健センターの使用許可について
- 新・健康ながの21シンボルマーク「なっぴい」
- 空会けんぽ長野支部と協定を締結しました
- 新型コロナウイルス感染症による「健康二次被害」を防ぎましょう

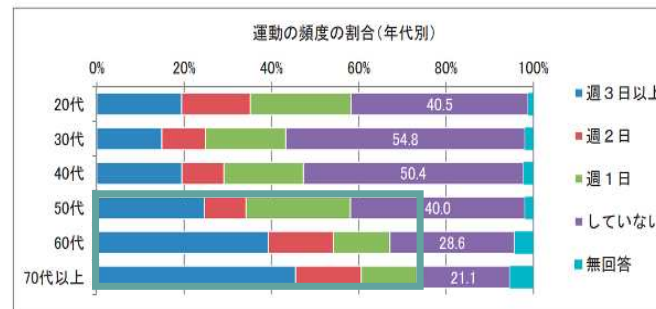
長野市民の運動習慣

高齢者の平均歩数は全国平均を大きく上回る



長野市：H27 歩数調査 国：国民健康・栄養調査

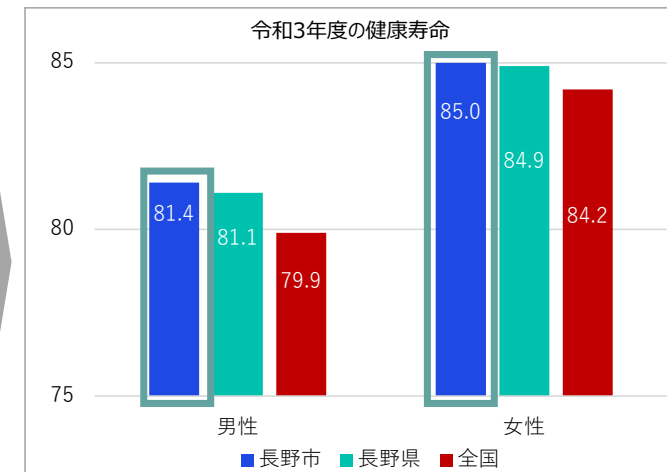
高齢者の運動の頻度が全世代中最も高い



H27 まちづくりアンケート

長野市民の健康

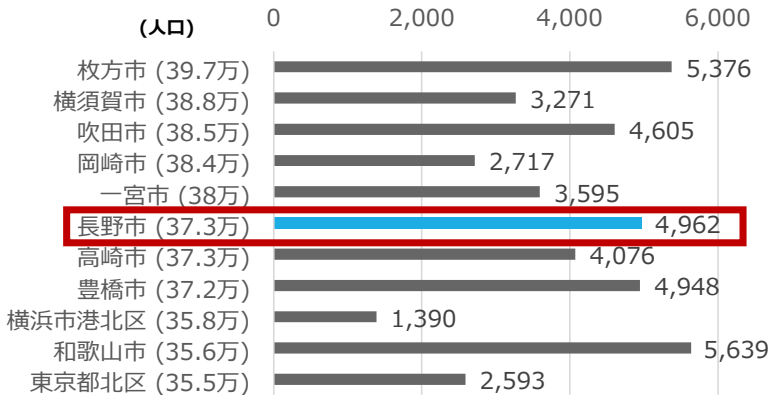
長野市民の健康寿命は県・全国平均に比べて非常に高い



(参考) 多くの福祉関連施設

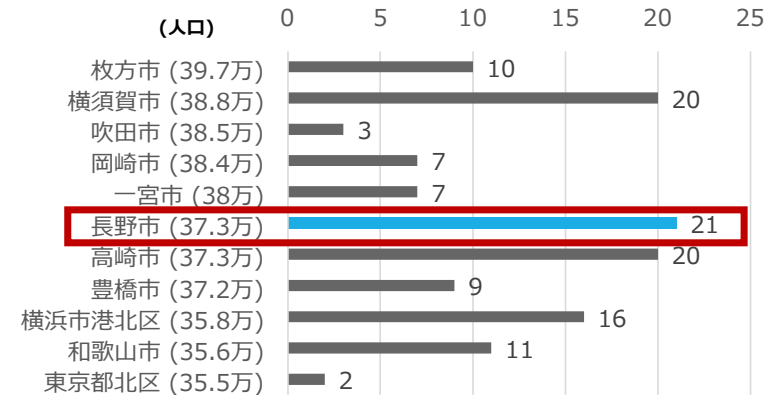
人口が同程度の都市と比べて病院病床数が多く（医療のキャパシティが高い）、児童福祉施設数、老人福祉センター数、障害者施設数も多い（福祉の包括性が高い）。

同規模都市の病院病床数



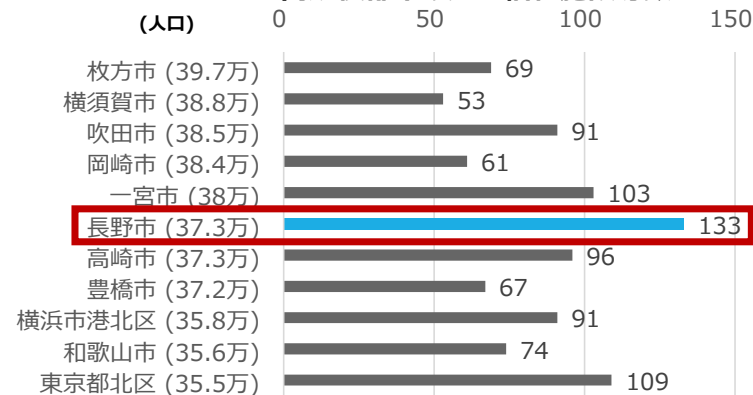
長野市の病床数は、**4,962で同規模の都市に比べて多く、全国の市区町村の中でも53位（上位3%）**と高い

同規模都市の障害者支援施設等数



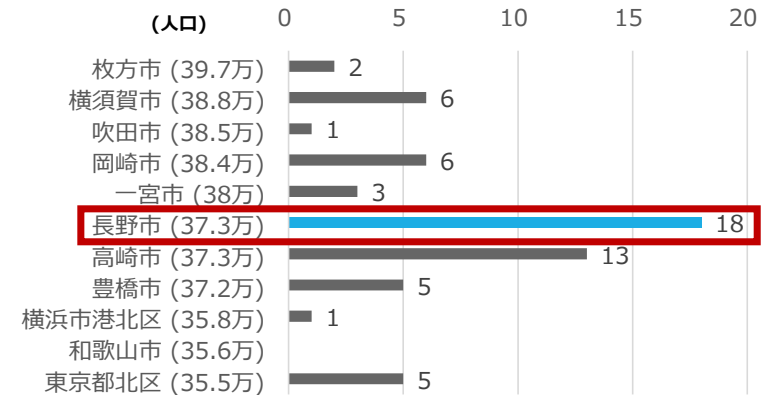
長野市の障害者支援施設数は、**21で同規模の都市に比べて多く、全国の市区町村の中でも22位（上位1%）**と高い

同規模都市の児童福祉施設等数



長野市の児童福祉施設数は、**133で同規模の都市に比べて多く、全国の市区町村の中でも33位（上位2%）**と高い

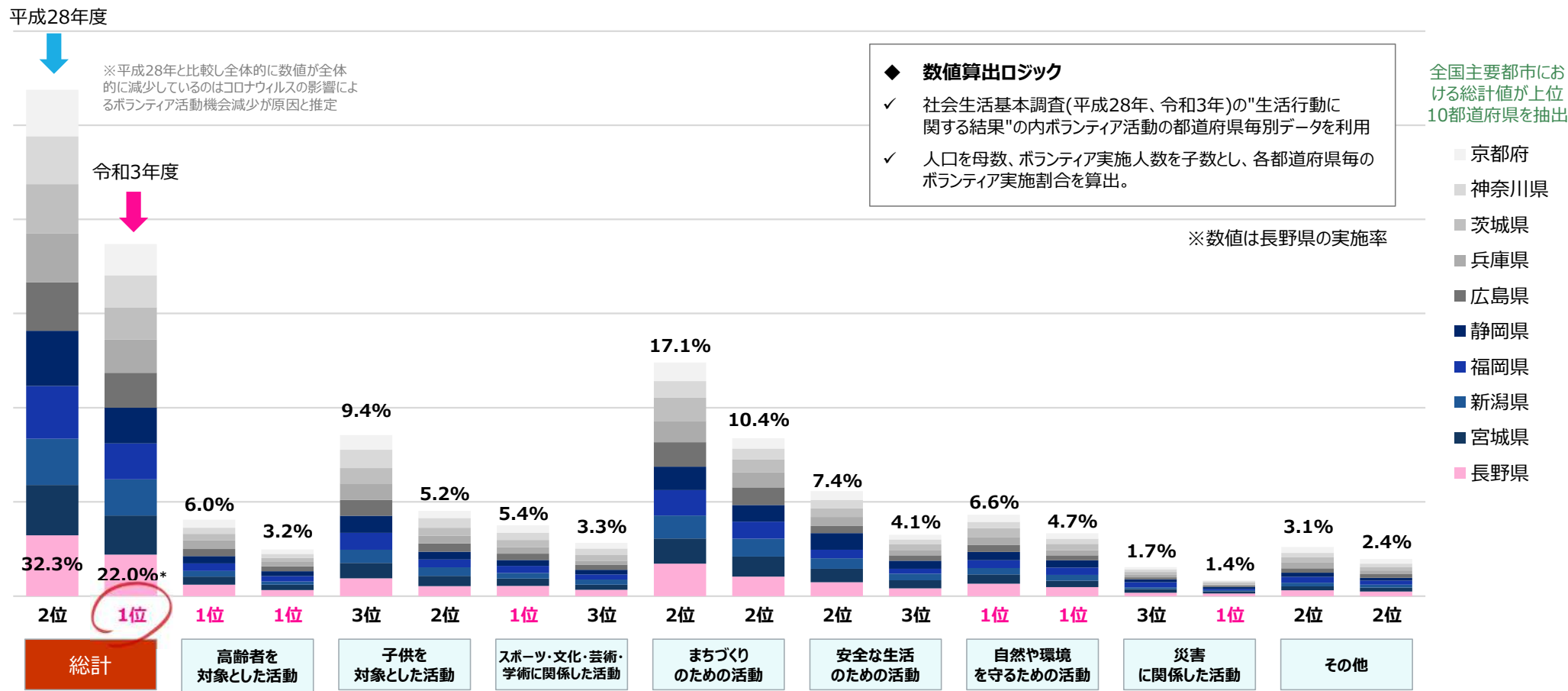
同規模都市の老人福祉センター数



長野市の老人福祉センター数は、**18で同規模の都市に比べて多く、全国の市区町村の中でも4位（上位0.2%）**と極めて高い

“長野市特性”への染み出し：④高いボランティア行動率

オリンピックによるボランティアマインドの向上・醸成が要因となり、総合では直近1位、ほぼ全てのカテゴリにてボランティアを志向する人数の割合が高い。



出所：日本政府(総務省 統計ダッシュボード(e-stat)) 社会生活基本調査結果をもとに作成

* 総計22%ロジック (40.1万(長野県において全てのカテゴリで年間1回でもボランティアを行った人口) / 182.4万(長野県の10歳以上の人口合計))

(参考) 長野におけるボランティア

長野オリンピックが日本においてスポーツボランティアが広がるきっかけとなったと言われており、ボランティアを通じてスポーツをささえるスポーツ振興や観光地でのボランティアガイドやおもてなしといった形でオリンピック後もボランティア活動が継続している。

■ 日本におけるスポーツボランティアの普及

- 1985年： 「スポーツボランティア」という言葉は定着していなかったが、神戸で開かれた国際大会ユニバーシアードにおいて約8,500人が参加して運営をサポートしたのが日本におけるスポーツボランティアの起源と言われている
- 1995年： 日本の「ボランティア元年」と言われた阪神淡路大震災
- 1998年**： スポーツの世界では長野冬季オリンピック、パラリンピックが開催され、およそ3万6000人のボランティアスタッフが運営を支えた
- 2000年： 「スポーツボランティア」という言葉が公文書（「スポーツ振興基本計画」）に記載される

長野オリンピックで「スポーツボランティア」が広く知れ渡り、その価値・意義を認められるようになった

ボランティア精神
が地域に定着

■ スポーツボランティアの継続的な実施



長野マラソン

- 沿道地区の住民や各団体、学校などから**1大会で3,000人以上**がボランティアとして参加
 - オリンピックを経験した市民が創るマラソンで、特にランナーからは「応援がいい」という評判がある
- ※笹川スポーツ財団の調査によると、長野県の年間スポーツボランティア実施率は9.7%であり、全国平均（7.5%）よりも高い

■ 観光地におけるボランティアを通じたおもてなし



長野市ガイド協会

- 115名がガイドとして登録し、善光寺表参道界隈を「日本一の門前町」とするべく活動する

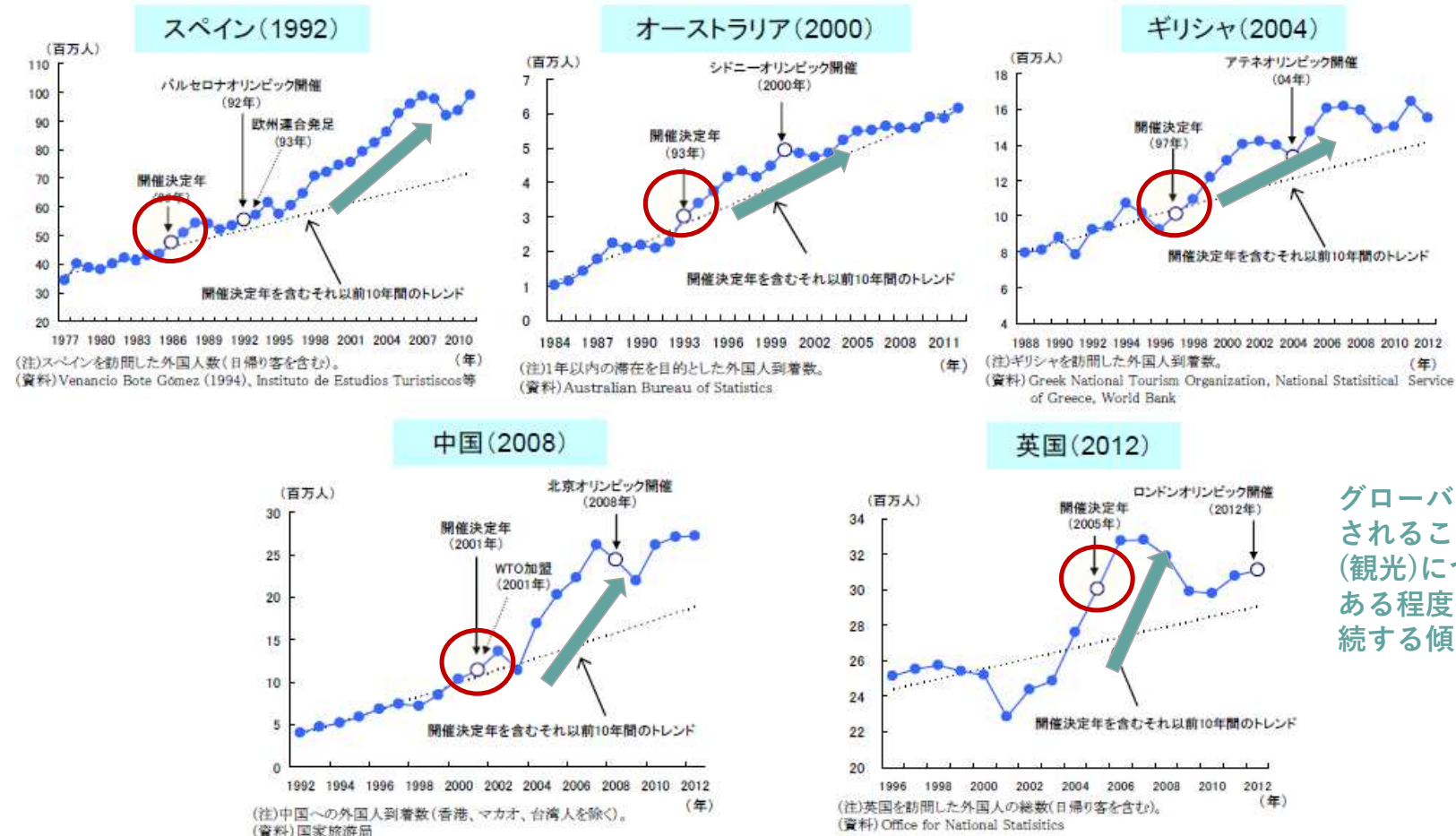
エコール・ド・まつしろ倶楽部

- 600名が登録し、華道・茶道・語り・武道などの専科を組織し、旅行者へのおもてなし活動をしている

2019年度時点において、長野市に存在するボランティアグループは**147団体**存在している。

⑤ブランディング・認知度向上

オリンピック・パラリンピック開催決定後は、開催国のインバウンド需要が長期間にわたって喚起される傾向が見て取れる。



グローバルメディア報道にさらされることで、対インバウンド(観光)については開催前・後、ある程度長期にわたり効果が持続する傾向

なぜ長野市で“スポーツ”を基軸に据えるべきなのか？（1/2）

スポーツのハード・ソフト面での環境(土壌)が全国的にもトップレベルであることは勿論のこと、“スポーツに対する受容性の高さ”、歴史的・文化的背景からくる“共創・協働力発現のポテンシャルの高さ”が群を抜いていると考えられ、“長野市だからこそ”スポーツの力・価値が発現できる可能性が高いと考える。

1. 質的にも量的にも整っているスポーツ環境

- ① プロチームの試合やビックイベントでも活用できる大規模施設の複数保持(全国的にも他にはない)
- ② 人口当たりのスポーツ施設数が全国でも圧倒的に多く、気軽に誰でも運動ができる環境の保持
- ③ 夏場・冬場で違ったバラエティーに富んだスポーツが楽しめる自然環境の保持(スノースポーツ+α)

2. 多種目に渡るコンテンツホルダーの存在（上記1に起因）

- ① サッカー、バスケットボール、フットサルに至る複数競技に渡る地元トッププロチームの保持
(住民、あらゆる産業とのハブ機能になり得る受け皿の存在)

3. “オリンピックタウン”、“スケートリンクの聖地”とも評される高いブランド力

- ① エムウェーブはナショナルトレーニングセンター強化拠点として指定されている
- ② 全国中学校スケート大会・国際大会など、大規模大会の定時開催の継続

1

スポーツに活用できる
豊富な自然環境

2

ハード面での整った環境

3

ブランドポテンシャルの高さ

なぜ長野市で“スポーツ”を基軸に据えるべきなのか？（2/2）

スポーツのハード・ソフト面での環境(土壌)が全国的にもトップレベルであることは勿論のこと、“スポーツに対する受容性の高さ”、歴史的・文化的背景からくる“共創・協働力発現のポテンシャルの高さ”が群を抜いていると考えられ、“長野市だからこそ”スポーツの力・価値が発現できる可能性が高いと考える。

4. スポーツ志向の非常に高い住民性

- ① 極めて高い市民のスポーツ実施率（スポーツに対する受容性の高さ）

5. 歴史的な背景とオリンピックの経験値からくる高い共感・協働力

- ① 多様な人を受け入れる高い共生意識（社会的包摂性の保持）
- ② “個々人”のおもてなし気質と気概からくる高いボランティア行動率と多くのコミュニティの存在

6. オリンピックを自前主義で開催し、上質な学びの体験を備えた市民の存在

- ① オリンピック・パラリンピックを経験した都市、市民だからこそ具体化できる体験イメージ
（準備から実施までの全てのプロセス経験：協働の記憶と素養・経験値）

4

スポーツへの親和性の高さ

5

共創・協働力発現の
ポテンシャルの高さ

6

自信と誇り、経験値
ノウハウの還元ポテンシャル

(参考) ～「スポーツ環境」に関する都市ランキング ～ 野村総合研究所

参考として、2022年に野村総合研究所が調査・分析を行った「スポーツ環境都市ランキング(国内106都市を対象)」においても、長野市はハード・ソフト面でのスポーツ環境充実度において、国内3位に選出。上位5位以内に位置する自治体の中で50万人以下の都市は長野市のみである。

図 1:「スポーツ環境」都市ランキング (項目別、上位都市の一覧)



【評価観点】ハード・ソフト面での総合評価

“する”環境： 体育館、陸上競技場、野球場、プール施設等が人口一人当たり施設数、面積の観点から充実しているかほか、都市内のウォーキング・ランニング環境、緑豊かな環境、バリアフリー環境等も含めた総合的な環境で評価

“みる”環境： プロチームの本拠地となっており、トップリーグの試合の観戦機会が充実しているか、市として積極的に競技大会を招致しており、様々な競技試合を観戦する環境が整備されているかを総合評価

“ささえる”環境： スポーツボランティア等住民の積極性、スポンサー等企業の積極性、地域スポーツコミッションの設置等自治体の積極性を総合評価

+α 長野独自の

5

共創・協働力発現の
ポテンシャルの高さ

6

自信と誇り、経験値
ノウハウの還元ポテンシャル

出所：野村総合研究所 国内105都市を対象に「スポーツ環境」に関する都市ランキングを発表(2022年4月28日 プレスリリース)

“スポーツを軸としたまちづくり” 実現に向けた全体像(概念図)

目指すもの

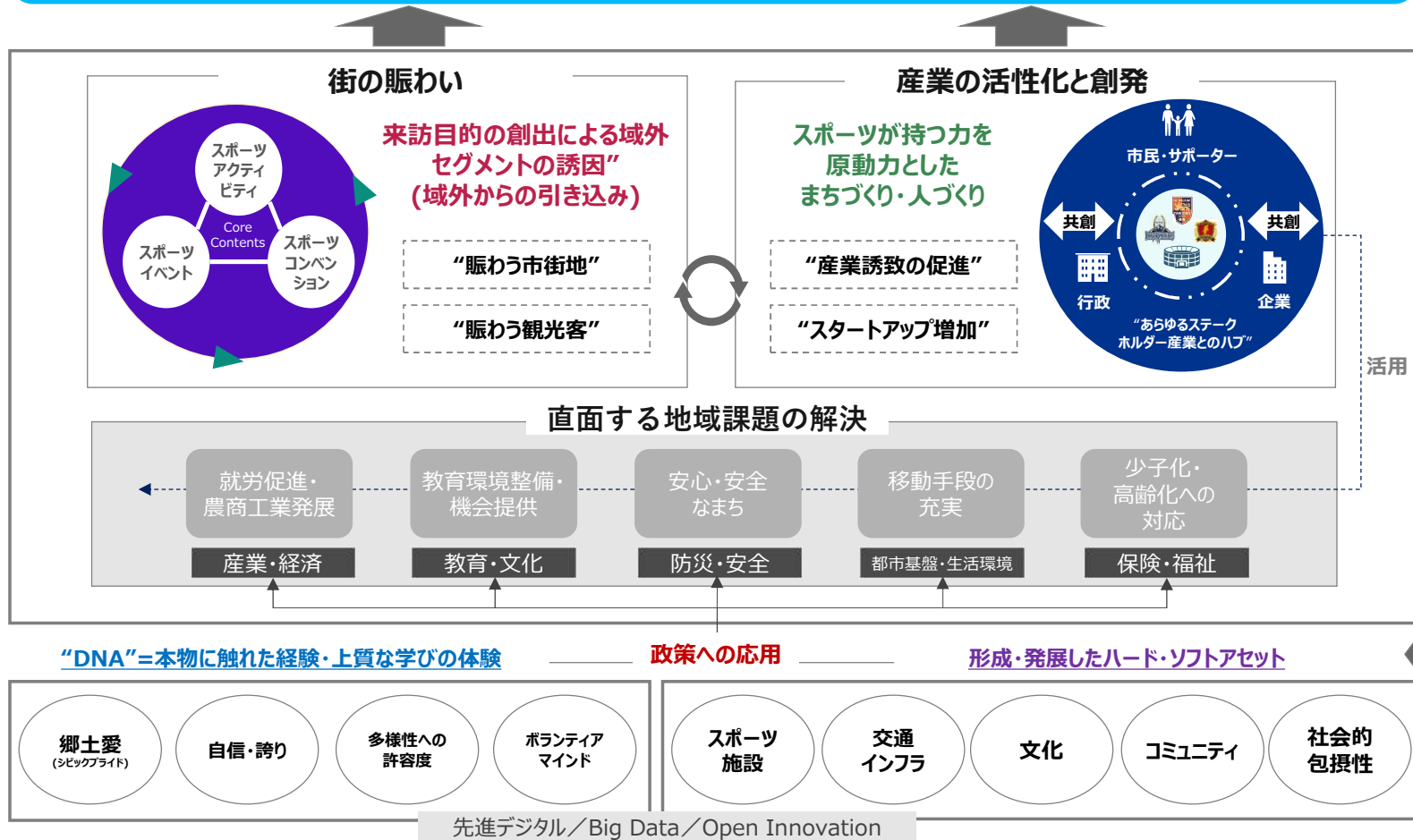
「日本屈指のスポーツタウン」

“スポーツの力で未来をつくるまち NAGANO”

— “国際的なスポーツ大会の経験（DNA）と環境”、“長野市民の特性”を繋ぎ・創る未来 —
市民が真の豊かさや幸せを実感し、いきいきとチャレンジをしながら、長野市への誇りを胸にWell-beingを体現できるまち

得られるもの

「日本屈指のスポーツタウン」
で実現したいテーマ



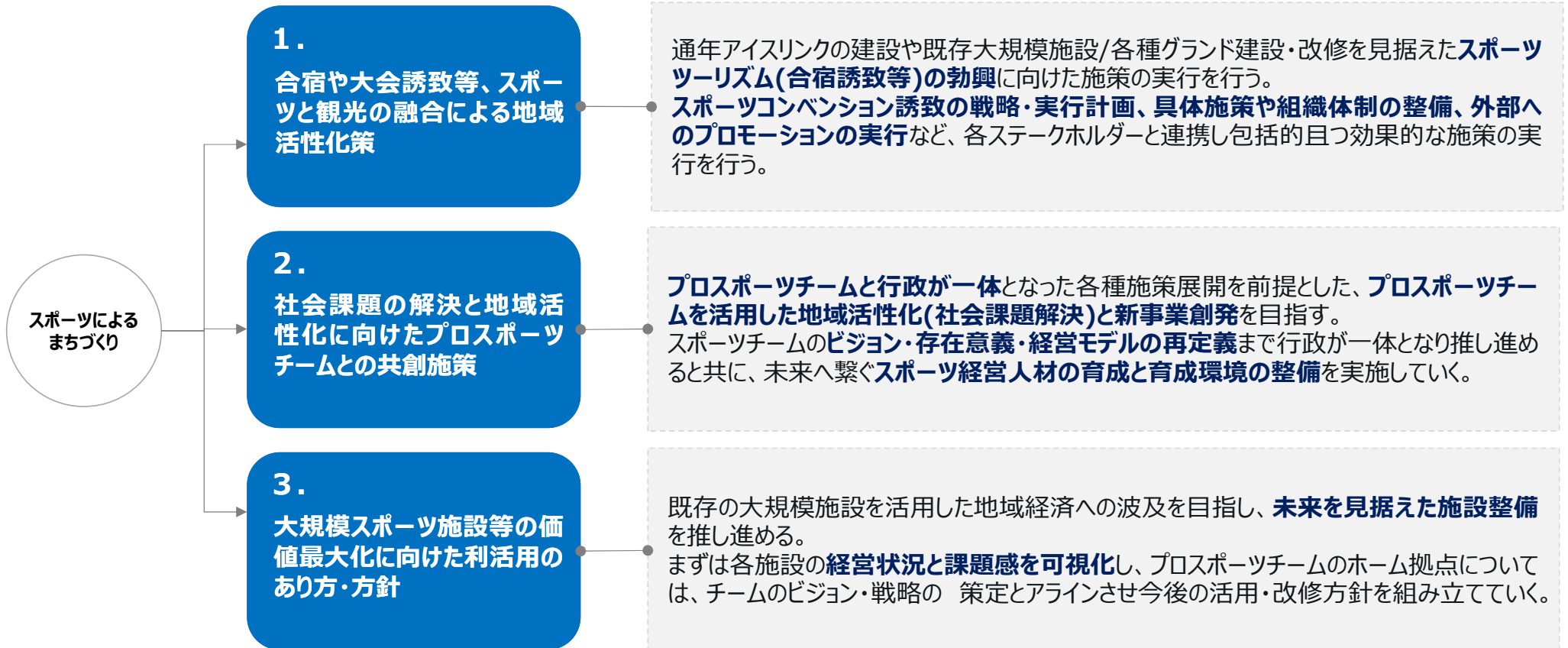
支えるもの

「日本屈指のスポーツタウン」
を実現するための原動力
(=強力な土壌)

柱となる施策の体系

目下3つの構成要素

実施目的と内容



Appendix

長野市のポテンシャル ～データから見て取れる長野市の
潜在”特性”と”優位性” 補足資料

長野市における スポーツ × まちづくりの取り組み

これまで、五輪開催都市としてのレガシー・DNAの継承、五輪施設の活用といった課題意識に対して、プロスポーツチームとの連携を積極的に行い、スポーツ×まちづくりを推進してきた。

長野市のスポーツ政策の課題意識

① 五輪開催都市としてのレガシー・DNAの継承

長野五輪を契機に市民の五輪やスポーツに対する理解や愛着が深い。
一方で、五輪経験世代と未経験世代（30歳未満）で、認識のギャップが大きい。

② 五輪関連施設等の老朽化への対応

長寿命化改修工事費用が莫大。行政の計画は現状維持・縮小均衡的であり、行政単独では新たな価値を創造するような具体案が出にくい。



五輪施設で行うプロチームの興行や選手の活躍を「**オリ・パラの疑似体験の場**」として位置付け、プロチームと連携し子どもたちを対象とした施策を強化

長野市とプロスポーツチームとの連携経緯

2022年 「ホームタウンNAGANOまちづくり連携推進ビジョン」の策定
プロスポーツチームと連携の枠組みを構築し、目標値を共有する体制づくり

2023年 プロスポーツチーム3チームへの出資・増資
チーム経営に積極的に参画（経営会議等にスポーツ部局職員参加等）

上記のねらい

◎行政とプロチームが**対等な関係で一体**となり、相互の目的（政策課題の解決、経営力向上）を実現していく**強固な関係性の構築**

行政側：プロチームを活用して、各施策（スポーツ実施率、健康増進等）の波及効果拡大

チーム側：行政との関係を活かして、認知度・集客力向上、営業等での信用度向上など

◎ホーム施設は市営であり、**チーム＝コンテンツホルダーと施設を一体的に運営・経営**することで、未来志向の付加価値創造、地域活性化を実現

具体例：プロスポーツチームをハブとしたまちづくり

プロスポーツがハブになり、行政や企業等と共創することでポジティブサイクルを作り、スポーツのまちに対する影響力を高めてまちづくりへとつなげていく。



具体例：「みらいハッ！ケン」プロジェクト

- 長野オリンピックの**理念の一つは「子どもたちの参加」**
- 大会の観戦や選手との交流、一校一国運動など、**本物の体験を通じて**多くのことを学び、それが子どもの成長や、生き方・考え方にもプラスの影響を生んできた。
- **子どもの成長につながる上質な体験や学びの機会を提供**し、市民と共に、**まち全体で子どもたちのチャレンジを応援**するため、令和7年度から「みらいハッ！ケンプロジェクト」を本格実施。



対象者 及び 配布額

長野市居住の小学校1年生から
中学校3年生までの全児童
(約27,000人)



子ども一人あたり年間

3万円分の電子ポイント

ポイント利用対象のサービス **1,162プログラム** 9/3現在

体験プログラム（単発型） 477プログラム

料理体験プログラム、おしごと体験、
スポーツ観戦、音楽コンサート鑑賞など



習い事（継続型） 685プログラム

学習塾、スポーツ教室、ピアノ教室など

※学習塾は中学生のみ対象



具体例：部活の地域移行 プロスポーツチームの取組

① 各種スクールの入会金や月会費等に利用（習い事）



の利用先として運営している各種クラブやスクールを登録し、子どもたちのスポーツ参加を後押し

- 信州ブレイブウォリアーズが地元中学校の部活動の受け皿となり、活動を開始。今後も拡大予定
- チームチアガールのチアダンス教室の開催
- フットサルチーム ボアルース長野において、外部移行に伴う課題である移動手段の確保について、循環バスの試験運行の実施
 - ※ プロスポーツチームで13件の部活動の受け皿や各種スクールを提供
 - ※ 市内部活動の地域移行に伴う活動費への支援を順次実施



② 試合観戦プログラムの提供（体験型）

観戦チケット、チームグッズとセットになったプログラムを提供（全4チームが参画）